

日本コミュニケーション学会 関東支部 2016年度定例研究会

公共性・雑誌文化とコミュニケーション

ソーシャルメディアやウェブの利用でコミュニケーションがネットワーク化される中、従来のメディアコミュニケーションで重要な研究テーマであった公論の形成過程や雑誌文化などの公共圏をめぐる争点はどのようにとらえていけるのだろうか?メッセージ産出(production)やメッセージ流通(distribution)の可能性を考察した昨年度の研究会の発表・討議を受け、今年度の定例研究会では、新しいメディアの中でこれまでのメディアを通じたコミュニケーションの可能性を考える機会としたい。今回の研究会では、「メディア論・メディア史」、「政治思想史」を専門とするお二人の研究者をお招きし、それぞれの立場から公共性や雑誌文化についてお話しいただく予定である。

日時：2017年3月26日(日)

場所：昭和女子大学 大学3号館3階3S01教室

参加費：無料

参加申し込み先メールアドレス: k-matsum@nishogakusha-u.ac.jp

(二松学舎大学 松本健太郎)

スケジュール

13:30 受付開始

14:00-14:05 開会の挨拶

14:05-14:55 松田 宏一郎先生 講演

14:55-15:10 休憩

15:10-16:00 松永 智子先生 講演

16:00-16:30 質疑応答・討議

16:30 閉会の挨拶

講演者プロフィール

まつだこういちろう

松田宏一郎先生: 立教大学法学部教授。法学博士。東京都立大学社会科学部政治学専攻博士課程単位取得退学。専門は日本政治思想史。著書に『擬制の論理 自由の不安』(慶應義塾大学出版会、2016年)、『陸羯南自由に公論を代表す』(ミネルヴァ書房、2008年)、『江戸の知識から明治の政治へ』(ペリカン社、2008年)、共編著に Jun-Hyeok Kwak and Koichiro Matsuda eds., *Patriotism in East Asia* (Routledge, 2014)など。徳川期および明治期を中心に、法・政治的概念の連続性と変遷、知識人の権力観と歴史的背景について研究を進めている。

まつながともこ

松永智子先生: 東京経済大学コミュニケーション学部専任講師(教育学.Ph.D)。京都大学大学院教育学研究科博士課程修了、日本学術振興会特別研究員を経て現職に至る。専門はメディア史。著書に『青年と雑誌の黄金時代』(共著、岩波書店)、『日本の論壇雑誌』(共著、創元社)など、外国語学習誌や翻訳雑誌、エスニック・テレビといった「境界のメディア」の歴史的・社会的役割について研究を進めている。

主催：日本コミュニケーション学会関東支部

小西卓三(支部長)、田島慎朗(副支部長)、菅家知洋(運営委員)、高本香織(運営委員)、松本健太郎(運営委員)